

出願書類等提出明細票

受験番号

※

志望する プログラム・ サブプログラム	プログラム	氏名	選抜区分 (該当に☑)	<input type="checkbox"/> 一般選抜 <input type="checkbox"/> 現職教員選抜 <input type="checkbox"/> 外国人留学生 等選抜 <input type="checkbox"/> 派遣教員選抜 <input type="checkbox"/> 特別選抜
	サブプログラム	本人選抜 (電話番号)		

出願する書類等は、必ず確認のうえ提出欄に○印又は必要事項を記入し、本票を上にして提出すること。

なお、提出書類に不備がある場合には、受理しないことがあるので十分注意すること。(学生募集要項参照)

	書類等の名称	提出欄	備考					
			一般	現職	留学生等	派遣	特別	
							◎全員要提出 ▲：摘要欄に該当する者のみ要提出	
①	出願書類提出明細票(本紙)		◎	◎	◎	◎	◎	本学所定の用紙
②	入学志願票		◎	◎	◎	◎	◎	インターネット出願サイトからダウンロードの上、A4用紙で片面印刷して提出すること
③	卒業(見込)証明書【学部】		◎	◎	◎	◎	◎	・原本を提出すること ・日本語又は英語以外の言語で発行された場合は、必ず日本語訳又は英語訳を添付すること(様式自由)
④	成績証明書【学部】		◎	◎	◎	◎	◎	・原本を提出すること ・日本語又は英語以外の言語で発行された場合は、必ず日本語訳又は英語訳を添付すること(様式自由)
⑤	教育職員免許状授与証明書 又は取得見込証明書		◎	◎			◎	・原本を提出すること(コピー不可) ※次の書類は不可：教育職員免許状の写し、有効期間更新証明書、更新講習修了確認証明書
⑥	面接調査書		◎	◎	◎	◎	◎	本学所定の用紙
⑦	課題研究計画書		◎	◎	◎	◎	◎	本学所定の用紙
⑧	推薦書						◎	・本学所定の用紙又は都道府県等教育委員会が作成したもの(別便(教育委員会から直接送付)とする場合は、「提出欄」に「別便」と明記すること)
⑨	教育実践研究履歴申告書 (報告書等を含む)			◎			◎	・本学所定の用紙(様式裏面の記入例を参照すること。別便とする場合は、「提出欄」に「別便」と明記すること。)
⑩	在職(期間)証明書		▲	◎	▲	▲		・本学所定の用紙 ・原本を提出すること(公印がコピーのものは不可) ・次のいずれかに該当する者は提出 ①一般選抜及び外国人留学生等選抜(在職のまま本学大学院に入学しようとする者) ②一般選抜、現職教員選抜、派遣教員選抜志願者のうち、「5. 現職教員等に対する特例等」を希望する者
⑪	戸籍抄本等		▲	▲		▲	▲	・各証明書等と現在の姓が異なる者のみ提出 ・改姓の事実が確認できる公的機関発行の証明書を提出すること ・戸籍抄本等証明書の場合は、原本を提出すること(コピー不可)
⑫	住民票		▲	▲	◎	▲	▲	・外国籍の者は提出すること ・市区町村長の発行する証明書(国籍、在留資格、在留期間明記のもの)
⑬	国費外国人留学生証明書		▲		▲			日本政府国費留学生は提出すること(原本)
⑭	実務の状況に関する申立書		▲	▲		▲		・本学所定の用紙 ・「5. 現職教員等に対する特例等」を希望する者は提出すること
⑮	免許コース志願理由書		▲				▲	本学所定の用紙 ・一般選抜又は特別選抜志願者のうち希望する者は提出すること
⑯	作品(作曲)		▲	▲	▲			・専門科目2で「作曲」を選択する者は提出すること 別便とする場合は、「提出欄」に「別便」と明記すること
⑰	ポートフォリオ又は論文等		▲	▲	▲			・美術・工芸教育サブプログラム志願者は提出すること ・別便とする場合は、「提出欄」に「別便」と明記すること
⑱	作品(書道)		▲	▲	▲			・書道教育サブプログラム志願者は提出すること ・別便とする場合は、「提出欄」に「別便」と明記すること

受付 1	※	月	日	担当：	受付 2	※	月	日	担当：
------	---	---	---	-----	------	---	---	---	-----

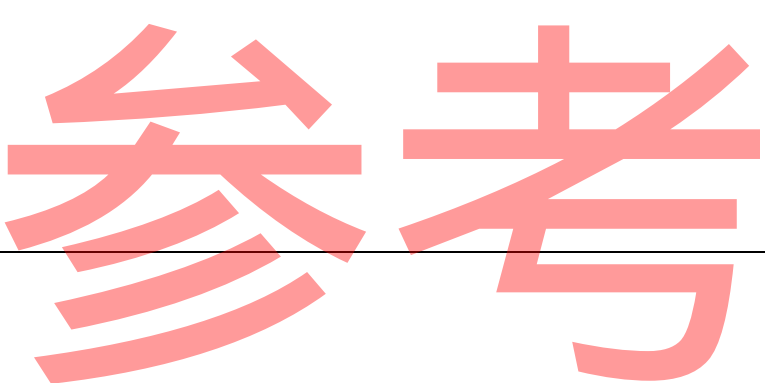
※印欄は記入しないこと。

面接調査書

受験番号

※

東京学芸大学大学院教育学研究科（教職大学院）

フリガナ		選 抜 区 分 (該当する区分の□に✓を付すこと)	<input type="checkbox"/> 一般選抜 <input type="checkbox"/> 現職教員選抜 <input type="checkbox"/> 外国人留学生等選抜 <input type="checkbox"/> 派遣教員選抜 <input type="checkbox"/> 特別選抜	
氏 名			出身大学等 卒業年月	国立 公立 私立
生 年 月 日 年 日 齢	昭・平 年 月 日生 令6.4.1現在(満 歳)			
志望する プログラム・ サブプログラム		プログラム		サブプログラム
入 学 志 願 理 由 (動機・ねら い・希望する 進路などを具 体的に記入)				
大学在学中 及びその後 に行った 実践・研究				
入学後研究・ 研鑽をつみ たい事項				

- (注) 1. ※印欄は記入しないこと。
2. 裏面の特記事項も記入すること。

氏名

特記事項

参考

特記事項 これまでの学校教育に関わる経験や実践・研究の中で特筆すべき事項、部活や社会貢献活動（ボランティア）、自己PRしたい事項を記入すること。

備考（以下は記入しないこと。）

※

氏名

課題研究計画書（つづき）

東京学芸大学大学院教育学研究科（教職大学院）

参考

推薦書（教育委員会等派遣用）

年 月 日

東京学芸大学長 殿

教育委員会等名

教育長等名

公印

下記の者を貴学大学院教育学研究科（教職大学院）教育実践専門職高度化専攻の派遣教員選抜に推薦します。

記

・派遣者について

所属	職名	氏名	希望するプログラム・サブプログラム	修業年限	備考

・派遣者にかかる入学料・授業料の納付予定者：

例）教育委員会負担予定 など

- （注）
1. 派遣に際して特別な条件等（例：IB 教員資格の取得）がある場合は、備考欄に記載願います。
 2. 上記項目を全て満たしていれば、本様式によらないことも可能です。
 3. 修業年限については「1年」又は「2年」のいずれかを記載願います。なお、1年履修については、入学者選抜の可否とは別に審査するので、必ず許可が出るとは限りません。

受験番号

※

※印欄は記入しないこと。

教育実践研究履歴申告書

※この書類は、現職教員選抜又は派遣教員選抜の志願者のみ提出のこと。

東京学芸大学大学院教育学研究科（教職大学院）

現任校名〔 〕

氏名〔 〕

- (1) 現任校等の教育課程における教科・領域等に関わった実務経験・研究業績
- (2) 校内外の教科・領域等を参観し講評やコメントを述べた実務経験・研究業績
- (3) 教材づくりやその指導・評価に関する実務経験・研究業績
- (4) 幼児・生徒指導や教育相談に関する実務経験・研究業績
- (5) 学級・学年経営に関する実務経験・研究業績
- (6) 校（園）務分掌の中で主幹教諭・主任教諭などの実務経験・研究業績
- (7) 特色ある学校園づくりや教員研修へ参画した実務経験・研究業績
- (8) その他、特筆すべき事実（社会・国際貢献に関わった実務経験・研究業績等）

- (注) 1. 具体的な教育実践研究履歴の申告内容については、上記(1)～(8)の項目に関する、過去5年以内の具体的な事実（実践報告など著作物がある場合はその典拠）を記載してください。
2. 記入欄が不足する場合 A4 判の用紙（縦置き横書き）を使用し、この様式にしたがってワープロソフト等により和文で(1)～(8)の項目ごとに、新しいものから順に沿ってまとめ、ホッチキスで留めてください。
3. 事実に相違することが判明したとき、合格を取り消すことがあります。
4. 記載事項がない場合は、該当する欄に「なし」と明記してください。
5. 教育実践研究履歴のうち代表的な報告書等（原本又はコピー等）5点以内を提出してください。提出したものについては、必ず○印を付してください。なお、提出されたものは返還しません。

受験番号

※

※印欄は記入しないこと。

教育実践研究履歴申告書

※この書類は、現職教員選抜又は派遣教員選抜の志願者のみ提出のこと。

東京学芸大学大学院教育学研究科（教職大学院）

現任校園名〔 〇〇県〇〇市立〇〇小学校 〕

氏名〔 〇〇 〇〇 〕

(1) 現任校等の教育課程における教科・領域等に関わった実務経験・研究業績

○授業改善推進プラン「学力向上のための授業改善の研究」(2018)

・校内研究「伝え合い理解し合う子ども」の研究推進委員長として授業推進(2020)

(2) 校園内外の教科・領域等を参観し講評やコメントを述べた実務経験・研究業績

・初任者研修性への授業参観と助言指導(2017)

○授業力向上をめざす公開授業研究会の参加報告書執筆(2020)

(3) 教材づくりやその指導・評価に関する実務経験・研究業績

・H市教育委員会定例訪問における校内研修会での研究授業(2019)

○平成26年度総合的な学習の時間「音の出る地図作り」の実践(「音楽教育研究」2014年6月号, ミュージック・フレンド社)

(4) 幼児・生徒指導や教育相談に関する実務経験・研究業績

・臨床心理士と小・中学校教員による「いじめに関する事例研究会」に参加(2021)

○青少年育成のための青少年地区対策委員会・警察署との連携による地域安全マップづくりの研究(2019)

(5) 学級・学年経営に関する実務経験・研究業績

・企画委員として職員会議運営への参画(2016)

・第3学年の学年主任として学級経営

(6) 校(園)務分掌の中で主幹教諭・主任教諭などの実務経験・研究業績

・教務主任・主幹(令和2年度) ・学年主任(平成28, 令和3年度)

・研究主任(平成28~平成30年度)

(7) 特色ある学校園づくりや教員研修へ参画した実務経験・研究業績

○学校運営連絡協議会に参加し, 学級・学年経営の実践に関する説明・質疑応答(2020)

・姉妹校「T県U市K小学校」との交流活動の企画・実施(2019)

(8) その他, 特筆すべき事実(社会・国際貢献に関わった実務経験・研究業績等)

・市の人権カレンダーの共同執筆(2018)

・こどもエコクラブへの参加, エコプロダクツ展への引率指導(2021)

(注) 1. 具体的な教育実践研究履歴の申告内容については, 上記(1)~(8)の項目に関する, 過去5年以内の具体的な事実(実践報告など著作物がある場合はその典拠)を記載してください。

2. 記入欄が不足する場合A4判の用紙(縦置き横書き)を使用し, この様式にしたがってワープロソフト等により和文で(1)~(8)の項目ごとに, 新しいものから順に沿ってまとめ, ホッチキスで留めてください。

3. 事実に相違することが判明したとき, 合格を取り消すことがあります。

4. 記載事項がない場合は, 該当する欄に「なし」と明記してください。

5. 教育実践研究履歴のうち代表的な報告書等(原本又はコピー等)5点以内を提出してください。提出したものについては, 必ず○印を付してください。なお, 提出されたものは返還しません。

在職（期間）証明書

受験番号	※
------	---

※印欄は記入しないこと。

東京学芸大学大学院教育学研究科（教職大学院）

フリガナ 氏名	昭和 平成	年	月	日生	志望する プログラム・ サブプログラム	プログラム サブプログラム
勤務先名					職名	
職務内容 (できる限り 詳しく記入 すること。)						
勤務形態	常勤 非常勤(週	時間)	経験年月数	※	年	月
在職期間 (任期付き 期間除く)	年 月 日 ~ 年 月 日				(現職の場合) 現在に至る	
休職 (休業) 期間	・無 ・有(有の場合は以下も記入すること。)		年	月	日	~ 年 月 日
上記のとおり相違ないことを証明します。						
令和 年 月 日						
住所						
所属機関名						
所属長氏名						公印

- (注) 1. 太枠内を志願者が記入し、他について所属長が記載する。なお、所属機関が複数にわたる場合は、本紙を必要枚数コピーし、所属機関ごとに作成すること。
 なお、公立学校教員で、学校長が人事記録等により履歴が確認できる範囲において、集約して在籍期間を証明することは差支えありません。
2. 一般選抜の出願要件②又は現職教員選抜の出願要件②によって出願する者は、出願要件を満たすことが確認できるように提出すること。(学生募集要項の5頁参照)
3. 現職教員等に対する特例等を希望する場合は、要件を満たすことが確認できるように提出すること。(学生募集要項の7頁参照)

実務の状況に関する申立書

受験番号

※

※印欄は記入しないこと

東京学芸大学大学院教育学研究科（教職大学院）

フリガナ 氏名		志望する プログラム・ サブプログラム	プログラム サブプログラム
生年月日	昭・平 年 月 日生		

<個別の実務の状況について>

1. 評価基準 A：十分当てはまる B：当てはまる C：やや不十分 D：不十分
2. すべての「実務領域と内容」について自己評価してください。
3. 評価は ABCD のいずれかを○で囲ってください。

実務領域と内容	評価
1. 教育課程の編成及び実施	
・自らの授業等において、週ごとの教育計画等を作成し、それに基づいて授業等を行っている	A B C D
・自らの授業等において、時数や進度などの管理に努めている	A B C D
・授業等の計画において、学年や教科担当などと連携しながら進めている	A B C D
・学校園の教育目標や育てたい子ども像を念頭において自らの教育計画を立てている	A B C D
・教科等の年間指導計画や全体計画などの作成に関与している	A B C D
・分掌上の教務に係る職務において指導的な役割を果たしている	A B C D
・学習指導要領等の趣旨や学校・教育委員会の教育課題を踏まえた教育課程の実施に努めている	A B C D
・地域や学校園の実態に応じた特色ある教育活動の創造に努めている	A B C D
2 教科等の実践的な指導方法	
・授業等を行う際、教材研究や幼児児童生徒理解に努めて行っている	A B C D
・授業等を行う際、指導方法や指導技術の工夫や改善に努めている	A B C D
・道徳教育・特別活動・総合的な学習の時間など教科以外の指導にも力を尽くしている	A B C D
・指導に対する評価を適切に行っている	A B C D
・少人数、習熟度別、TT 等の様々な形態の授業実践の経験がある	A B C D
・学校園内の件数や地区研究会で、研究授業を進んで行っている	A B C D
・学習指導案の作成、年間指導計画の作成などについての若手教員への指導に努めている	A B C D
・教科等に係る研修会等に参加している	A B C D

(裏面につづく)

3 幼児児童生徒指導及び教育相談	
・日頃から幼児児童生徒理解に基づく子どもの対応を行っている	A B C D
・日頃から幼児児童生徒の進路指導（キャリア教育）の充実に努めている	A B C D
・幼児児童生徒の問題行動等に係る対応の実績はある	A B C D
・クラブ活動，部活動，地域活動・ボランティアなどに努めている	A B C D
・幼児児童生徒理解や生活指導・進路指導に係る研修会等に参加している	A B C D
・分掌上で生活指導や進路指導に係る職務の実績がある	A B C D
・健全育成に係る地域の取組み等に参加している	A B C D
・生活指導や進路指導，教育相談等について，若手教員への指導に努めている	A B C D
4 学級経営及び学校園経営	
・朝の会，ホームルーム，給食指導，清掃指導などを工夫して行っている	A B C D
・家庭や保護者との連携について綿密に行っている	A B C D
・学級経営や家庭との連携などについて，若手教員への指導に努めている	A B C D
・学校園経営方針を視野に入れて教育活動や指導事務を行っている	A B C D
・分掌上の部会や委員会等において指導的な役割を果たしている	A B C D
・OJTを理解し，学校園内における人材育成に努めている	A B C D
・学校園運営改善のための評価（学校評価委員会，学校運営連絡協議会等）に関わっている	A B C D
5 学校教育と教員の在り方	
・教育者としてのコンプライアンスを携えて教育活動や指導事務を進めている	A B C D
・組織の一員としての自覚をもって教育活動や教育事務にあたっている	A B C D
・教育者としての誇りや生きがいをもって教育にあたっている	A B C D
・様々な研修会等に参加するなど，絶えず自己研鑽に努めている	A B C D
・子どもや保護者，地域の方に信頼されている	A B C D
・同僚や上司から信頼され，指導的役割を果たすことが期待されている	A B C D
・自他のストレスマネジメントに配慮して職務にあたっている	A B C D
・若手教員や指導力に課題のある教員に対しても労を惜しまないで指導にあたっている	A B C D

以上のとおり申し立てます。

令和 年 月 日

所属 _____

氏名 _____

(自署すること)

氏名 _____

参考